

令和2年度 学生FD CHAmmit 学部提案書に基づく改善報告書

【短期大学部（船橋校舎）】

① 学生との協議の場について

実施日	実施内容
令和3年6月17日	Zoomを利用したオンライン協議 出席者：<教員> 酒匂 教明（教職員教育改善委員会委員長<建築・生活デザイン学科>） 金 炯秀（同副委員長<ものづくり・サイエンス総合学科>） 川根 深（同委員<一般教育>） 海老原正明（<ものづくり・サイエンス総合学科>） 小林 一彦（<ものづくり・サイエンス総合学科>） <学生> 建築・生活デザイン学科2年生 3名 ものづくり・サイエンス総合学科2年生 2名

② 改善点について

項目	実施済	検討中	実施不可	実施内容
(1) 双方向授業（学生の声が聞きたい）	○			船橋校舎27教室に、当該教室で行う対面授業をZoomにより配信することを目的としたWEBカメラ・音響関係機器を設置した。
(2) テスト実施方法の工夫、学生の理解度チェック	○			すべての科目で理解度の確認方法はレポートとした。一つのレポートのみで確認するのではなく、複数回を実施し、一つのレポートに評価点が偏らないようにする。
(3) 成績評価方法の統一	○			学業成績の判定に関する基準を設け、一部の授業科目を除き、授業科目ごとの評定（S,A,B,C,D）の割合が所定の割合の範囲内に収まるよう、学業成績の判定を行っている。
(4) 授業の質		○		質に対し不満の多い授業の共通点は、教員のオンラインスキルの問題であったため、該当の科目についてはスキルの向上を図っている。

③ 今後の要望について

項目	実施済	検討中	実施不可	実施内容
(1) 学修スタイルは対面授業が良い	○			対面授業の方が教育効果が高いと推測される科目について、15回授業の全てを対面でできるよう、令和3年度授業時間割の調整を行った。実際に満足度が高いと意見があった。
(2) 課題のフィードバック		○		課題のフィードバック方法は様々であり、すべての科目で実施しているかの把握は難しいが、すべての科目に対し課題のフィードバックをするように周知はされている。
(3) グループ活動（授業）を行いたい	○			15回授業の全てを対面で行う授業を設置し、グループワークを行うことのできる授業時間割を編成した。 また、Zoomを用いたオンライン上のグループワークを行えるよう、Zoomアカウントの配付、使用方法の周知等を行っている。
(4) 交流会（Zoom）を行いたい		○		学生・教員・職員で意見交換できる機会を設けたい旨の意見が教員からもあり、「改善報告書」作成の目的以外でも継続的に実施できないか検討を行う。現時点では、短期大学部（船橋校舎）として毎年開催する「教職員研修会」において行うことが提案されている。
(5) キャンパスの有効活用	○			学生の入構機会の確保（対面授業の増加、研究活動による入構（2年生））を行い、前年度と比較し入構する機会を増加させた。 また、安全に学生が入構できるよう様々な取組み（QR着席トレーサビリティ（QRコードを利用した着席位置の記録）、入構管理システムの導入、検温器の設置、経路の整理、感染予防注意喚起等の掲示、パーテーションの設置等）

④ 改善や要望を受けて、短期大学部（船橋校舎）から学生へのメッセージ

- (1) 強い要望のあった【実験・実習系科目の対面実施】は、これからも第一優先で考えます。
- (2) オンライン授業で使用するツールを整理して、【課題提出の日程管理がしやすい仕組み】を考えます。
- (3) オンライン授業の利点を整理し、【コロナ禍収束後のオンライン授業の取扱い】については、検討を続けていきます。